

平成25年度 生徒指導全体構想

生徒指導提要
一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導力の育成を目指す。
自己実現の基礎にあるのは、自己選択や自己決定である。

授業改善
□教師と生徒とのかかわりを変える
□「対話」と「協同」のある学び
□聴く・つなぐ・もどす・ケアする
□積極的な授業公開と同僚性の構築

行事・会議等の改善
□行事・会議等のかかわりを変える
□授業時数の確保、多忙感の軽減
□行事・会議等の精選、運営の工夫
□異学年交流の推進・充実

静黙読書(朝の読書)
□言語能力を高める
□漢字が読めるようにする
□書きたい欲求を目覚めさせる
□「わかった！」という実感を持たせる
□コミュニケーションを豊かにする
□「聞く・話す・読む・書く」力を付ける

重点目標
きき合い 学び合い 支え合う 美しい学校

生徒指導の目標
きき合い 学び合い 支え合う 生徒指導

生徒指導の基本方針
(1) まず、生徒を丸ごと引き受ける
特に、問題を抱える生徒の心の闇や困り感(辛さ、憤り)を聴き、問題の背景を探り、それぞれの生徒に希望を与える。
(2) 学び続ける生徒は、崩れない
とにかく、生徒とかわかり続ける。教師の言葉が生徒の心に届かなくなったとき、生徒は崩れる。
(3) 他者に依存し合い、支え合う関係づくり
「他者に依存できない生徒は、自立もできない」⇒問題を一人で抱え込まない。生徒、教師、保護者、関係者等と深く聴き合い、温かい言葉で正確に伝え合い、依存し合い、支え合う。
「ちゅら人づくり」プロジェクト | 県教委「指導の努力点」

具体的な取組
(1) 居心地の良い「居場所づくり」⇒「聴き合う学級づくり」
(2) 生徒の自律心・自治意識の醸成
①兄弟学級や縦割り班による異学年交流を推進し、「自尊感情」「学ぶ意欲」「規範意識」を育む。⇒異学年交流なしに「社会性」は育たない。
②生徒会活動や部活動を活性化し、校訓「自学」「自律」「自力」を育む。
(3) 新たな「連携」づくり⇒「学びの支援室」の整備
①「情報連携」から「行動連携」そして「顔の見える連携」へ
②「地域の絆づくり」の強力な推進～地域の子どもは地域で育てる～

中学校学習指導要領

県の指導の努力点
(1)児童生徒個々への対応の充実
(2)学校全体としての取組の充実
(3)家庭・地域社会、関係機関・団体との連携の強化

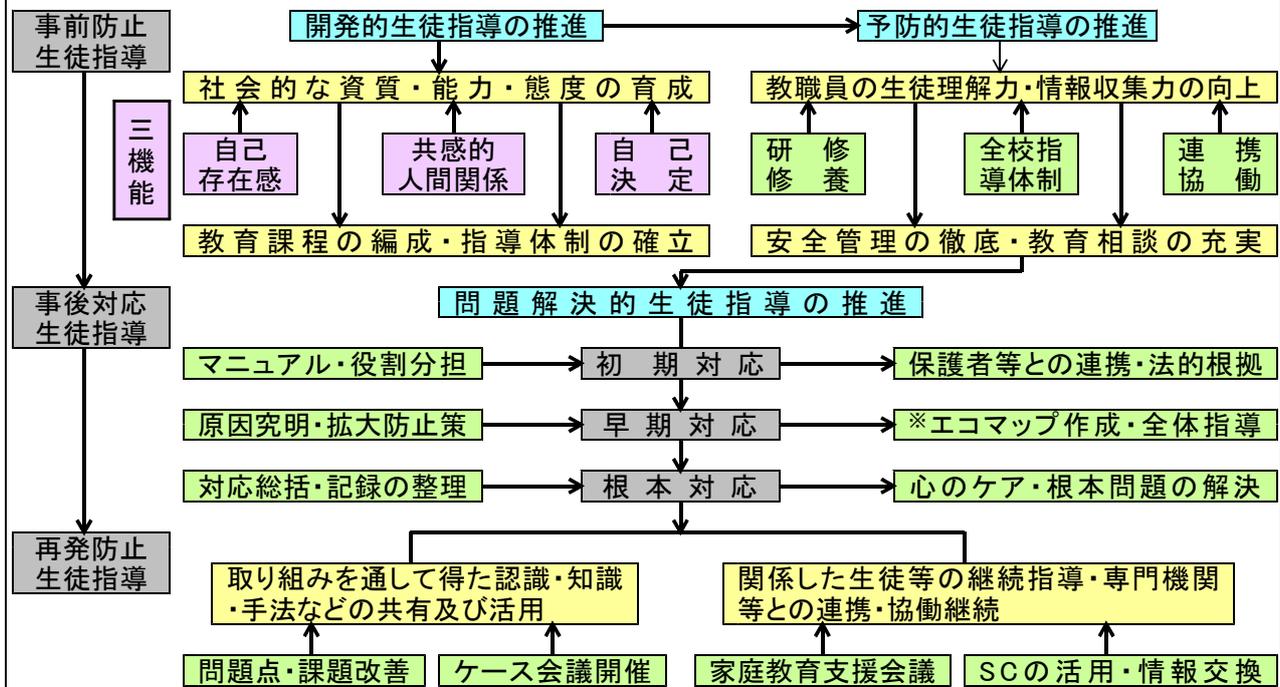
きき合う学級づくり
□生徒と生徒のかかわりを変える
□コの字型机配置と小グループ活動
□間違いや多様な考えを認め合う
□「わからない」から始まる深い学び

地域連携の強化
□保護者・地域とのかかわりを変える
□保護者や地域住民の授業や行事等への積極的な参加を促進
□積極的な情報発信で正しい理解

黙動清掃(縦割り清掃)
□みんなで協力する心を育てる
□おしゃべりを我慢する心を育てる
□場所やモノに感謝する心を育てる
□汚れに気づき、掃除を工夫する心を育てる
□社会性や人間関係能力を育てる

段階的指導・支援「ぶれず、見捨てず、かわかり続ける」指導・支援

積極的な生徒指導の実践



※エコマップというのは、福祉サービスを合理的かつ効率的に提供するために、利用者や家族の人間関係やさまざまな社会資源の状況を、一見して理解できるように、図式的・システマ的に描き出した地図のようなものをいいます。

※引用文献:①『生徒指導提要』, 文部科学省, 平成22年3月
②『平成25年度～27年度 学校教育における指導の努力点』, 沖縄県教育委員会, 平成25年1月
③星野昌治 編, 「ワンペーパー学校経営～A4一枚で伝える課題別実例75～」, 教育開発研究所, 2011